

開催日	催し物名・観覧時間	入場方法	主催者(問い合わせ先)
6月	第16回 彩友会絵画展 観覧時間:10:00～17:00(初日は12:00から、最終日は16:00まで)	無 料	彩友会 070(1555)1007 鈴木
	第18回 若葉フォトクラブ写真展 観覧時間:11:00～18:00(初日は13:00から、最終日は16:00まで)	無 料	若葉フォトクラブ 03(3923)3765 徳武
	第47回 月曜会絵画展 観覧時間:10:00～17:00(初日は14:00から、最終日は16:00まで)	無 料	月曜会 0422(71)6757 松本
	PHOTO結 The 4th Photo Exhibition 観覧時間:11:00～18:30(初日は13:00から、最終日は16:00まで)	無 料	PHOTO結 0422(46)5693 内田

企画展示 三鷹市所蔵 太宰治資料展

Ⅰ期 ～桜桃忌編～

三鷹市美術ギャラリー
三鷹のこの家

観覧無料

6月6日(金)～9月7日(日)

晩年の太宰治の三鷹での創作活動と桜桃忌について紹介します。桜桃忌は、美知子夫人が昭和24年6月に太宰の墓を森鷗外への墓のはす向かいに建立して以降、太宰と生前から親交のあった人たちによって営まれていました。今では全国から太宰治の愛好者たちが墓前に集まり、三鷹の6月の風物詩となっています。Ⅰ期は、三鷹市が所蔵する太宰治資料の中から、主に桜桃忌に関係する資料を展示・公開します。錚々(そうそう)たる作家が太宰を偲んで認(したた)めた色紙や短冊、親しい人たちが集い賑わう桜桃忌の写真など、太宰への愛着が感じられる数々の資料をご覧ください。

★昨年三鷹市が購入した、直筆原稿「雀」の全頁も初公開いたします。

観覧時間:午前10時～午後6時

休館日:6月 9、16、23、25～30日 7月 1～4、7、14、22、28日
8月 4、12、18、25日 9月 1日



太宰治色紙
「わが身ひとつの夏にあらねど」
太宰が亡くなる昭和23年に制作。
背景は『桜桃』単行本の装幀を描いた
画家の吉岡堅二によるもの。

次回企画展のご案内

吉田千鶴子

一 踊れ、謳へ、描け

戦後の熱き時代を生きた美術家

- 【会 場】 三鷹市美術ギャラリー
【開館時間】 午前10時～午後8時(入館は午後7時30分まで)
【休 館 日】 月曜日(7月21日、8月11日は開館)、7月22日(火)、8月12日(火)
【観 覧 料】 一般400円 / 65歳以上、学生(高・大)200円 / 中学生以下無料
障害者手帳等をお持ちの方と付添の方1名は無料
【主 催】 三鷹市美術ギャラリー・(公財)三鷹市スポーツと文化財団

吉田(旧姓:井上)千鶴子は、1948年に油彩画家として出発し1950年代中頃から版画家として活躍した三鷹ゆかりの作家です。

1924(大正13)年横浜で生まれ東京で育った千鶴子は、戦争の足音が迫る時代に佐藤高等女学校(現・女子美術大学付属高等学校)油彩科を卒業し、その後も画家を目指して学び続けました。1948年に前衛芸術家・岡本太郎主宰の「アヴァンギャルド芸術研究会」に参加し、以後は自らの画風を抽象へ移行させました。

こうした千鶴子の創作活動は、1953年に版画家・吉田穂高(1926～1995)と結婚したことで大きく変化します。1950年代に入り日米間の文化交流が活性化するなかで、千鶴子は吉田家の一員として版画制作に携わり、色彩感覚に優れた完成度の高い抽象版画を数多く生み出しました。1956年には日本で初の女性による版画団体である女流版画会を結成(66年まで活動)。1967年から一家で三鷹市井の頭に居住し、晩年まで当地で制作活動を継続します。

本展では、版画家・吉田穂高の伴侶、日米間で活動した版画一家「吉田ファミリー」を支えた存在にとどまらず、吉田千鶴子という戦後を生きた一人の女性美術家の軌跡をご紹介します。



(無題) 1963年 木版



《礁A》1973年 木版、亜鉛凸版

2025年 7月5日(土)～9月7日(日)



- ・この催し物案内は、2025年5月20日にとりまとめたものです。
- ・内容、期間、時間、入場方法等は変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・各催し物の詳細については、主催者までお問い合わせください。